

2021 年 8 月

食料安全保障月報 (第 2 号)



令和 3 年 8 月 3 1 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみならず、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報(生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等)について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021年8月食料安全保障月報（第2号）

目次

概要編

I	2021年8月の主な動き	1
II	2021年8月の穀物等の国際価格の動向	2
III	2021/22年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 収穫期を迎える旧ソ連諸国の生産・輸出動向	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	9
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	10
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	11
4	FAO食料価格指数の推移	13
5	食品小売価格の動向	14

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	<米国> 北部の干ばつの影響で春小麦、デュラム小麦が減産見通し	
	<カナダ> 継続する平原三州の干ばつ天候で減産見通し	
	<豪州> 生産量は史上第3位の豊作	
	<EU> フランス、ドイツ等で降雨による品質低下の懸念	
	<中国> 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し	
	<ロシア> 生産量は冬枯れ等により前月に比べ12.5百万トンの下方修正	
2	とうもろこし	8
	<米国> 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し	
	<ブラジル> 2020/21年度冬とうもろこし生産見通し下方修正	
	<アルゼンチン> 増産見通しも輸出税継続	
	<中国> 収穫面積増で増産、飼料用需要も増加見通し	
3	コメ	13
	<米国> 約2年ぶりにイラクに輸出	
	<インド> 2021年7月までにベトナムへの輸出量が約70万トン	
	<中国> 引き続き輸入増により期末在庫量が前月から上方修正	
	<タイ> 2年連続の増産により輸出が回復見込み	
	<ベトナム> 競合するインドとコメの輸出価格が同水準に	

II 油糧種子

大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
<米国> 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し	
<ブラジル> 収穫面積増で増産、史上最高となる見通し	
<アルゼンチン> 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続	
<中国> 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン	
<カナダ> 高温乾燥の影響懸念も東部の降雨で緩和	

【利用上の注意】

表紙写真：豪州西オーストラリア州の小麦（7月26日撮影）。
天候に恵まれ良好な生育状況となっている。

(概要編)

I 2021年8月の主な動き

早期注意段階の継続について

2021年7月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、8月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 成熟期を迎える米国の状況

米国のとうもろこし、大豆は、高温・乾燥の影響があったコーンベルト北西部を除き、おおむね順調に受粉期、開花期を乗り切ったとみられる。8月の米国農務省（USDA）の需給報告では、本年第1回目の作柄調査の結果、単収が7月時点の見通しからとうもろこし、大豆とも引き下げられたため、生産量は、それぞれ1,050万トン、180万トン下方修正され、それぞれ3億7,470万トン、1億1,810トンとなった。しかしながら、前年度よりは増産となる見通し。期末在庫率はとうもろこしは8.5%、大豆は3.5%と2年連続で一桁台となっている。

一方、小麦は、春小麦が6月から7月にかけて主産地の米国北西部で生育期の高温・乾燥の影響を受け減産見通しとなっているが、冬小麦も単収が引き下げられたことから生産量は7月からさらに130万トン下方修正され、小麦全体で4,620万トン（前年度比7.1%減）の見通しとなっている。

期末在庫率は、前年度の40.0%から **写真：カナダアルバータ州の小麦（8月16日撮影）**
30.4%へ低下する見込み。 **干ばつの被害を受けている**

2 カナダの生産・輸出動向

カナダ西部の平原州では、6月からの高温乾燥が7月まで継続し、8月には一部降雨があったものの、小麦や菜種の作柄の改善には遅すぎたとみられている。USDAの8月の需給報告によれば、2021/22年度の生産量は、小麦は2,400万トン、菜種は1,600万トンと前月よりそれぞれ750万トン、420万トン下方修正された。8月下旬には収穫期を迎えた。

生産減に伴い、輸出量も小麦は1,750万トンと前月より550万トン下方修正、菜種は690万トンと320万トン下方修正された。なお、小麦に関しては、世界的には、EUや豪州では増産も、米国やロシアなど不作となっており、特にデュラム小麦の需給が引き締まるとみられる。一方、菜種に関しては、世界の貿易に占めるカナダの輸出シェアが6割と大きいと、国際需給が引き締まる懸念がある。

一方、カナダ東部は7月以降、降雨に恵まれ、大豆については、順調に生育しており、USDAによれば、生産量の見通しは610百万トンと前月からの変更はない。

なお、カナダ政府は8月15日に最大5億カナダドルの干ばつへの農家支援を公表。



3 南米の乾燥と霜害が発生したブラジル

パラナ川の上流に当たるブラジル南部からアルゼンチン北部にかけ、今年に入り降雨が少なく、水位が低下している。そのため、アルゼンチン政府は7月26日に180日間の渇水の緊急事態を発令し、下流に位置するロサリオ港を始めとする穀物輸出港からの貨物の積載量も制限されることとなった。このため、アルゼンチンの穀物輸出について、バイアブランカなど南部の海岸沿いの港からの輸出が必要となり、輸血量や運賃の上昇などの影響が生じるとみられている。

また、ブラジル南部では降雨不足が継続した後、6月下旬から7月下旬にかけて断続的に低温となり霜害が発生し、冬とうもろこしを初め、小麦やサトウキビ等に影響があったとみられる。ブラジル食料供給公社の8月見通しによれば、干ばつと霜害により、とうもろこしの生産量は7月の9,360万トンから680万トン下方修正され、8,670万トンと、前年度（1億250万トン）と比べ15.5%の減産となっている。

II 2021年8月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、7月末、250ドル/トン台後半で推移。8月に入り、ロシア産小麦の減産予測から一時260ドル/トン台後半に値を上げたものの、米国産の作柄評価が予想を上回ったこと、とうもろこし価格等の下落から260ドル/トン台前半に下落した。中旬には、USDAの8月需給報告で、ロシア、カナダ等の生産量の減少見込みから280ドル/トン前後に値を上げた。その後は、米国等の小麦輸出国の需給逼迫懸念に下支えされながらも、ドル高やとうもろこし、大豆価格の下落から値を下げ、8月下旬現在、260ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、7月末、210ドル/トン台半ばで推移。8月に入り、米国中西部の乾燥地域の高温・乾燥による作柄への影響懸念、USDAの8月需給報告で米国産とうもろこしの生産量予測が市場予想を下回ったこと、ブラジルの冬とうもろこしの生産量予測が干ばつに加え霜害により大幅に下方修正されたこと等から一時的に値が上がったものの、ドル高や原油安等の影響を受け上値が抑えられ、8月下旬現在、210ドル/トン台前半で推移。

コメは、7月末、410ドル/トン台後半で推移。バーツ安や海上コンテナ運賃の高騰から8月上旬には410ドル/トン台前半まで値を下げたが、価格下落によりアフリカやASEAN諸国等からの新規需要が発生し、8月中旬現在、420ドル/トン台前半で推移。

大豆は、7月末、520ドル/トン前後で推移。8月に入り、米国中西部の乾燥地域の高温・乾燥による作柄への影響懸念や中国向け等の新たな輸出成約等から8月中旬に530ドル/トン前後まで一時値を上げた。その後、乾燥地域への降雨予報やドル高等で大幅に下落し、8月下旬現在、470ドル/トン台半ばで推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 2,650 万トン下方修正され 27.7 億トン。消費量は、前月から 800 万トン下方修正され 27.9 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 27.3%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.7 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、4.9 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.6 億トンと前月予測から下方修正、期末在庫率は前月から下方修正された。

（注：数値は 8 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による）

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3 億トン。消費量は前年度を上回り 6.2 億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、17.4%となる見込み。

（注：数値は 8 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」による）